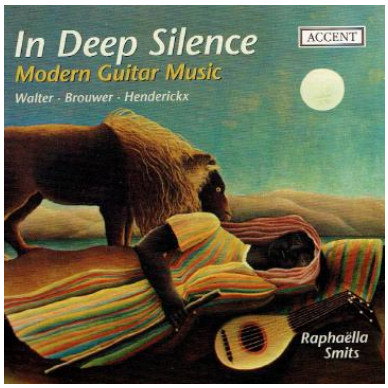
ギターCD レター from yakateru(第 18 号)

「どんな音楽が好きですか」「バッハなんていいですね。よく聴いています」「バッハですか。私には難しくてよくわかりませんねえ」「えっ！？バッハのどこが難しいですか、とてもいいですよ」「いやあ、どこといわれても、全くわかりません。聞いてるすぐ眠くなるし。……」「？？？？？？？？？？？？？」

音楽がわかる、わからんというが、その正体はなんだろう？？



わかる！って難しい！！？？・ー

前回 17 号に、最近、演歌がわかるようになってきたと書いたが、それまでも、演歌がわからないわけではなかった。自分の趣味から言うと苦手だなあというか、付き合いたくないなあという感じだったのが、最近は、「意外と、この人いい人かも」という感じで、わかるようになってきたということだ。

しかし、演歌が大好きな人に、BACH もいいですよ、と聞くと恐らく、「いやあ、クラッシク音楽は難しくてわかりません。BACH なんて、まったくわかりません」という答えが帰ってきそう（というか、帰ってくる）。このクラッシク音楽が難しい、BACH がわからないという感覚が、わからない。確かに、「フーガの技法」なんて曲を最初に聞かされたら「なんじゃこりゃあ！！」と思うかもしれない。しかし、ブランデンブルグやバイオリンコンチェルトを聞いてもらっても、「難しくてわからない」という（のだ。言われた！）

こんなにメロディーがわかりやすく美しいのにと思ってしまうが、そうではないのだろう、入口で迷子になっているのだ。入口が分からないのだ、どこにあるかが。

「英語で話された美しい詩」は、英語がわからない限り、そのポエムがいかに素晴らしくても理解不能である。その最たるものが、数学だ。数学をやっている方々から言わせると、数学の持つ美は何ものにも代え難く美しいのだそうだ。難しそうな数式が並んでいるページをみて、「どうですか、この証明方法のなんと美しいこと！」なんていわれても、演歌オンリーのおっさんに「フーガの技法」を聞かせるようなものである（ちなみに、この数学の美がわかるようにならないかと思い、「オイラーの公式の証明法入門？」を購入し、ちょっとは頑張ったが・・・？？？？）。

この「わかる」ということ、これが結構、わからないのだ。

仏教の一派？に「密教」というものがある。この密教の意味は、秘密にしているから、つまり、教えない・見せないから密教ではなく、見せても、教えても、わからない人にはわからないから密教というそうである。本読んで勉強する、先生から教えてもらう、そんな自分の努力と時間の積み重ねで解決できるものではないのである、この「わかる」というのは。

それではどうすれば「わかる」ようになるのか。そのひとつは、「気づき」であろうと私は思う。

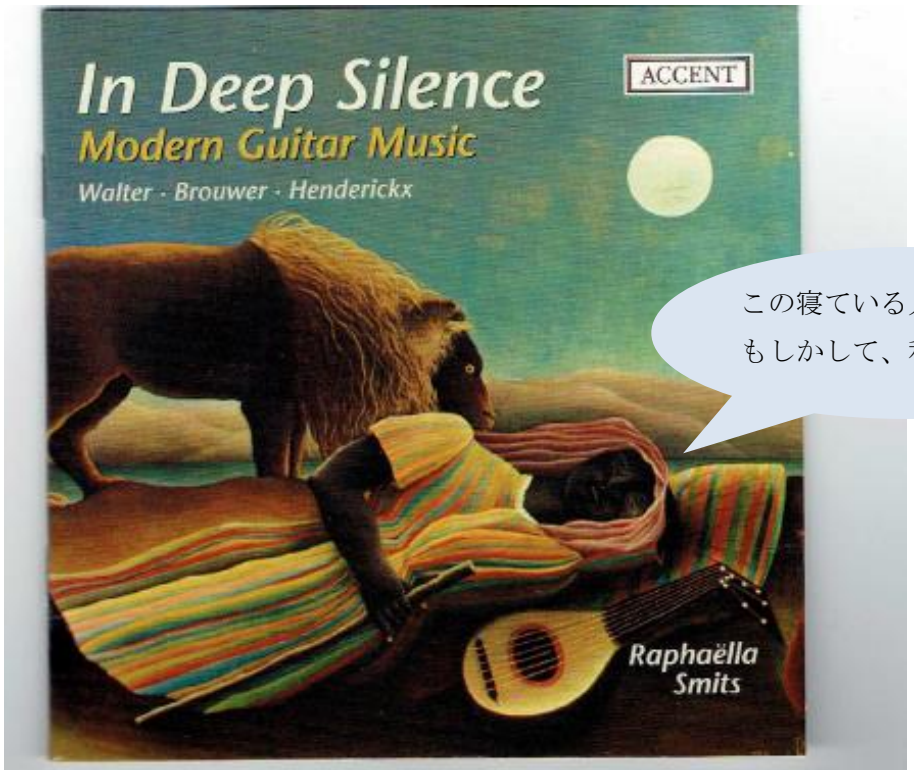
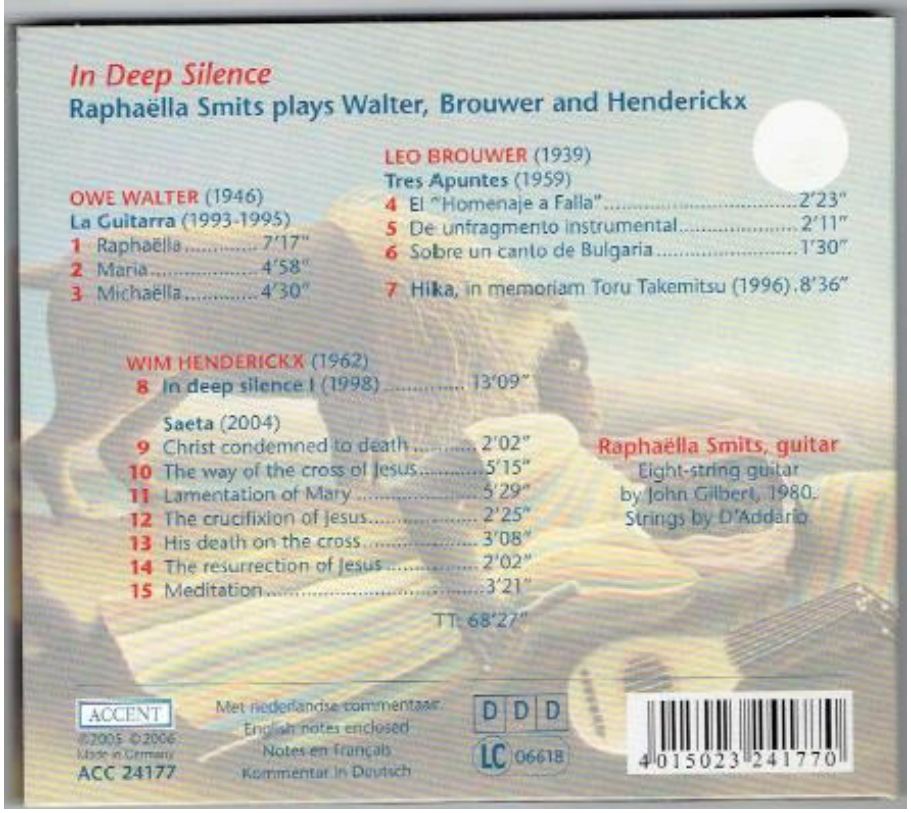
以前、風景デザインの仕事を担当していた時に、「風景というものの美しさは、発見された美しさである」と学んだ。風景美は、イギリスの田園に住んでた学者さん？が、たまたま、自分の家の窓越しに（つまり窓枠が額縁）、いつも見慣れている景色を見て、とてつもなく美しいことに気がついた、美しいということを発見した。

毎日毎日見飽きるほど接していた景色が、突然、「美」として意識された瞬間である。そう、「気づいた」のだ。いつも、その窓から見ていたはずの見慣れた景色。その瞬間までは、まったく、そんなこと思いもよらなかった。毎日、その美しいものに囲まれて生活していたにも関わらず、その事実が見えなかった。そして、「気づ」いた。その学者さんは、それから毎日、美しい風景のなかで生活することとなった。しかし、「気づき」の瞬間はなぜ訪れたか、あるいは、なぜその時までわからなかったのか。

恐らく、その瞬間を体験するには、そのための心の準備も整っていなければいけないのだと思う。知りたいという気持ち、追求心のようなものが体に溢れていなければいけない（と思う）。「求めよ、さらば開かれん！だ。

幸い、景色の美しさ、それも身近な景色の美しさについて、仕事のおかげでわかるようになった。また、BACH の「フーガの技法」でさえも美しいと感じることができるようになった。これも、ずっと BACH の音楽が知りたいと、求め続けていたからだろう。

さて、今日のおすすめ CD は、まずジャケットで選んだ。すぐ横に猛獣が来ていても、そのことが分からず深い眠りに入っている絵柄です。もしかして、「この素晴らしい音楽がわからないなんて、あなたは眠っているのですか！？」という問いかけかも。私には、わかりますよ、ウオルター、ブローウエル。いい CD です。（続く）



この寝ている人。
もしかして、私自身？